

第88号

2007. 1・15



かわにし町

議会だより



働く人 — 樽平酒造(株) のみなさん

平成18年12月定例会

特集 「未来の子供を未来の学校へ」 P2~3

一般質問 産廃施設・教育の独立 P4~5

意見書 米・麦などの関税撤廃を拒否せよ！ P8~9

町民の声 楽しく子育てを！ P11

◇ホームページアドレス <http://www.town.kawanishi.yamagata.jp>

◇平成19年1月 ◇発行 山形県川西町議会 ◇事務局 〒999-0193 川西町大字上小松1,567 ☎0238(42)2111

でなく 議論が必要だ

特集
教育・未来へ

未来の子供を未来の学校へ

昨年7月に教育委員会は、「小中学校の通学区の見直し」について小中学校及び幼児施設の保護者を対象に各地区毎の座談会を開催し、その概要を説明した。

賛否両論ありで、まとまるまでには紆余曲折が予想される。今、学校が・教育が・何か変わろうとしている。その背景に迫ってみる。

学校は地域とともに

昭和52年10月2日付の山形新聞に「議場に住民三百人」という見出しで、中学校統合問題に揺れる本町の混乱ぶりが載っている。当時を振り返ってみると、昭和50年11月に中学校統合問題審議会が「一町一校が基本である」とする答申を示し、以後、各地区毎、各部落毎の懇談会を開催して住民理解を求め、町議会もこの統合案を賛成多数で可決、承認した。

建設された校舎の老朽化が目立ち始め、各学校より改築やグラウンド整備についての要望が高まっていた。冒頭に戻り「川西町の9月定例議会は30日召集されたが、統合を進めるための『町立学校設置条例改正案』の取り扱いをめぐり、反対派住民三百人が議場で白紙撤回を求め町長に詰め寄るなどして混乱、まる半日以上も空転し、午後10時になっても本会議は開かれない異常事態となった」とある。結果的に継続審査となったが、統合賛成派も七千五百人余の賛成署名を取り付け町を二分した

ものとなった。この問題は、後の川西町第二次総合計画策定にあたり、中学校教育の充実として①玉庭中学校は玉庭小学校との連携を強化し教育機能の相互補完に努める。②川西・大塚・中郡・吉島の各中学校の学区について見直しを行い適正配置を進めるといふ表現に見直された。これが現在の平野部二校、山間部一校の基になった。小学校は、合併当初は本校が8校、分校が6校であったが、児童数の減少や時代の変遷等により昭和46年3月矢の沢分校を最後に全て廃校となった。「高山分校は、昭和

38年4月より高山小学校となる」朴沢小学校も昭和43年3月で閉校となり、小松小学校へ編入され、今の8校がある。

世の中っていじわるなんだね
立派な学校がありながら
どうして、遠い学校へかよつのか
しかし
きまったことはしかたない
いまさら、なんともしかたない
でも
ぜったいに忘れない
清らかな空気の中に建っていた
朴の沢小学校を
燃えるような緑の中に建っていた
朴の沢小学校を

〔当時6年生の詩から抜粋〕



3学期スタート 未来への夢はさまざま

統合再編ばかり 本格的

みんなで支えてきた学校

地域の発展は、教育にある。地域づくりは人づくり。地域のシンボルとして、学校はなくてはならないものとして、今まで学校環境整備やグラウンド整備に父兄や地区民による奉仕作業、そして、時にはお金を出し合いながら学校整備がなされて

きた。時代は、大きく変貌したが、子供は地域の宝であることには変わりはない。今日では、安全に児童が登下校が出来るようにと見守り隊が各地に結成され、誰もが立派な大人になってほしいと願っている。

教育改革と再生

戦後60年が経過し、教育をめぐる状況は一変した。特に90年代後半からは、問題行動を起こす子供が増え「学級崩壊」ということでクローズアップされ、凶悪事件の低年齢化等、教育現場の荒廃が顕著になり、戦後教育の見直しが必要との共通認識が生まれた。01年、当時の遠山文部科学相が新しい時代にふさわしい教育基本法のあり方を中央教育審議会に諮問。03年3月、中教審は全面的な見直しを求める最終答申を出した。06年12月、昭和22年に制定された教育基本法は、国と郷土を愛する心・社会の発展に寄与する・豊かな情操と道徳心を養うなどの公を

重視した項目を多く盛り込んで改正された。

「全ての子供に高い学力と規範意識を身につける機会を保障するため、公教育を再生する」は、安倍政権の目玉のひとつである。

96年に導入された「ゆとり教育」で授業時間数と教科内容が削減されたことによる影響は、学力の低下に眼が向けられ、04年の国際的な学力調査で低下傾向が明らかとなった。これにより、見直しの動きが一気に加速し、いじめやニート、フリーターといった定職に就かない若者の増加などの問題、さらに教員の質の低下も問われ、教育再生に向けた課題が山積している。

これら解決に向けて、首相の教育諮問機関である教育再生会議で
○教員免許更新制の導入
○学校選抜制の導入
○学校評価制の導入等について具体策を討議し提言することとしている。

ある高校では、生徒が学級担任を選挙で選ぶ「希望担任制」を導入し

川西町の児童・生徒数の推移
(2015年は推定)

	小学校	中学校
1955年 (昭和30年)	4,005名	2,168名
1965	3,400	2,171
1975	1,718	1,116
1985	1,745	793
1995	1,485	866
2005	925	513
2015	842	443

たり、ある教育委員会では、教員採用試験で年齢制限を撤廃して50代を採用するなど教育現場が大きく変わりつつある。

これからの学校

教育委員会が掲げる小学校2校、中学校1校については、地域の思いや当面する課題なども多く

あり、一朝一夕には実現するものではない。しかし、これからの学校は「新たな学校」になってゆくのである。未来を人間らしく生きるための新しい力を生み出していく所である。

未来の子供のため十分な議論を経ての決断が望まれる。



子どもの笑顔は、地域の宝

町政をただす

玉庭リゾートエリアに建設の産廃施設に疑問

町長 877人の反対署名を受け止め協定書へ



淀 秀夫 議員

淀 自然に恵まれた本町、三年前に環境基本条例を制定し環境保全への施策として第一条から第二〇条をもって構成されている。特に第二〇条には町長は、町民及び事業者に対して必要な指導又は助言を行う事が出来るとなっている。

条例作成までの当局側の法令審査委員会はどのような審査が行われるか。
町長 条例案の検討は解釈や文章表現等を審査し、町の政策として適当であるか審議し提案を議会にはかる。
淀 かつて、空き缶等のポイ捨て条例や町並みづ



「産廃中間施設」資源再利用は重要なテーマだが

くりの景観条例の制定を一般質問している。
環境基本条例や基本計画は全てを網羅しているようだが、先に述べたような具体的な例が盛り込まれていないが？
町長 美女木地区の開発分譲では、塀や建物の高さ、屋根等、良好な住環境にふさわしい色合いを条件に上げた。
基本計画の中にポイ捨て啓蒙をうたっている。

淀 この度、景観の良い玉庭リゾートエリアに、産業廃棄物の中間処理施設の建設計画には違和感があるが。
町長 八七七人の反対署名が県と町に提出されたが、環境保全に考慮し住民の安心と安全を確保するため、協定を締結する予定。

町独自の
規制が必要だが

淀 玉庭リゾートは三〇〇億円の巨大建設費が投入されたとも言われる。倒産後、去年一億円余りで競売されたものの、今だに事業の動きもない。
産廃の進出は今後も頻繁に続く可能性がある。
基本条例の中に具体的な例として、地域住民の同意を得る事や場所の選定等、町独自の規制が必要ではないか。
町長 環境保全に向けた対処策を今後とも研究し講じていく。さまざまの角度から、規制の可能性を探りたい。

一般質問



「冬の山里」イメージがふくらむ

教育の独立を掲げ、地方は防波堤となるべき 町長 完全な自立・独立を維持することは困難



黒澤 巖 議員

黒澤 国民の多くが頭をかきあげている間に、教育基本法は実にあつさりとか定されてしまった。いじめ自殺や未履習問題、

タウンミーティングの「やらせ問題」など、論議が本題の周縁部で空回りし、国民とそして何よりも教育を受ける者に

とって「教育とは何であるか」ということが論じられないままの審議経過に深い失望と闇の深さを覚えている。
なかでも、旧法第一〇条の教育の独立の項が、「法の定めるところ」という言い方で、時の政府の考え方や、立法府の多数派に従属すると変更されたことは重大である。教育がその施設・機会の提供に責任を有する行政

権力からさえ支配を受けないとする考え方は、フランス革命期に人類が獲得した最高の思想の一つで、世界的にも主流な教育に対する考え方だ。
地方教育行政と地方教育委員会は、六十年の現場実績を背景に、「不当な支配」に対する防波堤とならねばならないと思うがどうか。

再生メニュー」に掲げた「学校評価制度」「学校選択制」「教育バウチャー」と競争原理の導入がさらに現場の混乱と荒廃を招くことになるかと心配されているが。

町長 教育に求められる要件として、政治的中立性の確保、継続性、安定性の確保に加え、地域住民の意向の反映などがあげられる。特に地域との関わりで言えば、可能な限り地域に根ざした教育の実践が重要と考えており、地域が期待する教育の自主性・独自性が発揮できるシステムが具体化することを願っている。

教育長 そうしたことが懸念されることに關しては、多様な教育、地域性を生かした教育、自由で豊かな感性を育む教育などが損なわれないよう十分配慮すべきであり、制度を弾力的に運用する努力を怠ってはならないと思う。旧法の高邁な理念は、この六十年の間に私たちの血肉となっており不当な支配に服さない精神と、この姿勢は尊重していかなければならないと考えている。

しかしながら、現下の制度にあつては、教職員や財源の確保など市町村のみで抱えるには困難な面もあり、国がある程度の枠組みを作ることにはやむを得ないとも思う。

黒澤 国が示す方向に沿うことのみには精いっぱい地方教育委員会は、自らの存在意義を否定するものだとの指摘もあるが、教育長 承知している。地域教育に対する責任を十分に自覚し、継続して議論していく。

管理強化と競争原理

黒澤 安倍内閣が「教育

老人訪問看護事業

民間へ引き継ぐ

◎川西町健康福祉センター条例の一部を
改正する条例の制定について

平成八年に制定した川西町老人訪問看護事業特別会計事業の廃止をする条例となるもので、地域における訪問看護事業は重要であるが、安定的に訪問看護職員を確保することが困難であることか

◎川西町行政手続等における情報通信の技術の利

賛成多数で可決

用に関する条例の設定。
賛成多数により可決

◎議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定。
賛成多数により可決

◎川西町体育施設条例の一部を改正する条例

総合運動公園ホッケー競技場の使用料を設定するもの
賛成多数により可決

◎川西町霊柩車条例を廃止する条例

サービス低下にならないよう、指定管理者に対し霊柩車運行業務を譲渡
賛成多数により可決

その他の決議

◎指定管理者の指定

平成十九年四月一日から平成二十二年三月三十一日まで、川西町斎場を指定

管理者となる有会社川西葬祭社に指定

◎平成十九年四月一日から平成二十二年三月三十一日まで、川西町立図書館・遅筆堂文庫・川西町フレンドリープラザを指定管理者となる、特定非営利活動法人遅筆堂文庫プロジェクトに指定

◎山形県後期高齢者医療広域連合の設立

◎置賜広域病院組合規約の一部変更
賛成多数により可決

創設について

地域の木材や業者による住宅建築に対する優遇制度が県や市町村で導入されてきており、「山形県家づくり利子補給制度」「住宅リフォーム資金融資制度」等が創設されている。地元産材の需要の拡大と住宅産業の活性化を目的とし、川西町への経済波及効果を図る政策として取り組む。

《請願者》

米沢市大字笹野五一七一
一 置賜「地材地住」ネットワーク会長磯部庸徳外

継続

主要地方道米沢南陽白鷹線に交わる町道（猫板奉公田線・八幡堂洲島線）の危険の調査・補修・改修について

《請願者》

川西町大字洲島二四三一
一番地 中三ツ井自治会
会長 平 隆雄

採 択

◎川西町木材製品利用住宅建築奨励助成金制度の



長らくご苦労さまでした

コンバイン3台 強い農業づくりに1,474万円

歳入の主なものは、町税一五〇〇万円、強い農業づくり交付金一四七四万一千円、医療給付県補助金四五四万五千円、財政調整基金繰入金一八七四万八千円等による増額。

歳入歳出それぞれ四四六九万三千円を追加し、総額を七六億八九四一六千円とするもの。歳出の主なものは、集落営農育成整備支援事業一四七四万一千円、後期高齢者医療広域連合設立準備委員会負担金八五万二千円、町有牛購入費三〇〇万円、重度心身障害児者医療給付費九〇九万二千円、浴浴センター支援事業（非常照明工事）四三万三千円、老人保健特別会計繰出金四九六万三千円、町債償還元金、利子六一一万五円等による増額。

一般会計

補正

介護保険
歳入歳出それぞれ三七四万八千円減額し総額一四億三四二万三千円とするもの。

老人保健
歳入歳出それぞれ六九六万六千円追加し総額二億二二三八万二千円とするもの。歳出の主なものは、医療給付費の大幅な増によるもの。

国保

歳入歳出それぞれ一億八億三〇〇万九千円とするもの。歳出の主なものは、四月以降の一般高額療養費給付額の増による。

老人訪問看護

全員賛成により可決

歳入歳出それぞれ一億七五万二千円減額し総額一七五万二千円とするもの。

水道
緊急遮断弁設置事業が十八年度国庫補助対象採択がならないため九二二五万三千円減額するもの。

老人訪問看護
歳入歳出それぞれ一七五万二千円と職員勤務時間を週二十時間への変更による減額。

老人訪問看護
歳入歳出それぞれ一七五万二千円と職員勤務時間を週二十時間への変更による減額。

歳出の主なものは、介護給付・通所型介護予防事業委託料・介護予防給付ケアプラン作成委託料等の減額。

収益的収入及び支出それぞれ四九万六千円減額するもので、事業確定や給水量減により減額するもの。

多くの皆さんの中には議場が何処にあるのか？、と言う方も多しはず。どんな雰囲気の中、どんなテーマで熱い論議がされているのか等々、議場への階段を勇んで駆け上がり正直ビックリ。何と傍聴席を埋めるのはマスクミと私達数名のみであり、実際、一般質問の限られた傍聴のみであの臨場感の中、一時を過ごして見るとこれまでのイメージとはまるで違う感覚を抱いたのも事実。なにかにと真剣に町の未来について考えさせられた。皆さんも何はともあれ一度議会傍聴してみませんか。

「百聞は一見に如かず」とは言ったもので今回初めて議会傍聴に臨んだ。これまで私は、議会は疎か議会だよりさえ他人ごとの傍観者でありましたが、そこはモニターとしての責務は勿論ですが、明日の川西町を担う町民の一人として議場に足を運んだ。

大塚 奥山 雅弘

議会傍聴のスズメ



議会広報モニターから一言(5)

米・麦などの関税撤廃を拒否せよ！

オーストラリアとのEPA交渉は慎重に

今月中にも日本とオーストラリアとのEPA（経済連携協定）交渉が開始されようとしている。オーストラリアから輸入されている米・小麦・砂糖・乳製品・牛肉などが関税ゼロで流入すれば、国内農業と地域経済が壊滅的打撃を受けることは必至。全国の地方議会が意見書を提出している。

WTOドーハラウインドの交渉が中断し再開のメドも立っていない。このため各国は個別に自由貿易協定（FTA）や、経済連

携協定（EPA）の締結に向けて二国間の交渉を加速させている。

この場合心配されることは、経済力や交渉力の弱い途上国が不平等条約を押しつけられる可能性が高いことや、同じ国内にあっても、国際競争力の弱い分野が「おいてけぼり」となってしまうことだ。今や世界的に経済的陣取り合戦の様相である。

我が国もすでに、シンガポール、マレーシア、タイ（内容は確定したが昨年九月のクーデターで署名がストップ）、フィリピン、メキシコ、チリなどと大筋合意、または協定が発効している。また、インドネシア、ベトナム、ブルネイ、インド、スイス、韓国（韓

国労働界や一部産業界の抵抗で中断）なども交渉中である。

オーストラリアとは、昨年十月までに五回の政府間共同研究会合が開かれ、早ければ今月中にも本交渉に入るとの観測がなされている。オーストラリア

日豪EPAに関する意見書

可能にすること

1、わが国農業の崩壊につながる重要品目の関税撤廃を拒否すること
2、センシティブ品目について十分配慮をする
とともに、例外措置の明確化をはかること

3、WTO農業交渉における主張を堅持し、農産物の安定的な国内供給と農業・農村の持続的な発展を将来にわたって

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。
平成18年12月22日

川西町議会議長

《提出先》

衆参両院議長、内閣総理大臣、農林水産大臣

表紙の写真



働く人

中小松

(株)樽平酒造の皆さん

まだ松の内というのにはここは戦場のような活気。もうもうと湧き上がる湯気のもこうに男衆のかけ声が聞こえる。樽平の新酒の仕込みは十二月中旬から始まり三月いっぱいかかる。生きもの作りは正月も原則休みなし。

多くは町内の農家のご主人でもある十七人の蔵方によって、川西町名代の銘酒が、静かに優しく育てられている。新酒の搾りは今年二十日前後とのこと。

左党ぞろいの編集委員ののどが音をたてて鳴った。



海外産農産物はけっしてめづらしくはないが

療養病床の廃止、削減をやめよ



広がる「命の格差」

特老ホームにもはいれず

「医療制度改革関連法」の成立によって、療養病床が今後六年間で六割削減されることとなった。計算すると、本県では一八七三床（平成十八年二月現在）の内、一一二三床も減少することとなる。療養病床や老人保健施設、特別養護老人ホームでは今日においてすら待機者が多く、本県では一三四人とされている。

また、療養病床を医療の必要度で区分け（区分一～三）する制度も昨年七月から導入されたが、「区分Ⅰ」患者の入院基本料は、医院経営が維持できないほど大幅な引き下げとなった。「区分Ⅰ」患者は療養病床入院患者の約半数といわれ、こうした人たちが「しめ出し」される心配もある。完治しなくても、やむなく退院せざるをえないという事態や、「命の沙汰も金次第」の風潮が広がるうとしている。

療養病床の廃止・削減計画の

中止を求める意見書

（前略）

地域医療や介護に重要な役割を担っている中小

病院や有床診療所の入院機能をより充実拡大することが求められており、

厚生常任委員会に審査が付託された三つの陳情書がいずれも承認され、三本の意見書が発議された。これらは、先の通常国会で成立した『医療制度改革関連法案』に対するもので、医療と福祉に直接関与する地方議会からの反論というべきものである。いずれも全会一致で賛成。国会・政府に提出された。



スタッフ不足で需要増に対応しきれない

医師・看護職員確保対策の 充実強化を求める意見書

（前略）

医師・看護職員が不足

する現状を抜本的に解消し、将来にわたって国民

特別養護老人ホームなどの待機者をさらに増やすことにもつながる療養病床の廃止・削減計画の撤回を強く求める。

衆参両院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣

《提出先》

《提出先》

前掲に同じ

リハビリテーション 日数制限の 徹底を求める 意見書

個々の患者の必要に応じた十分なリハビリテーションを提供できるように、以下の点について政府は速やかに対応されるよう要望する。

記

- 1、リハビリテーションの診療報酬上の日数制限を徹底すること
- 2、当面、リハビリ日数制限の除外規定の周知徹底と活用促進の対策を講じること

《提出先》

前掲に同じ

委員会 レポート

総務常任委員会

通学区の見直しの課題は

平成十八年十一月二十一日、町内の小中学校通学区の見直し及び幼児施設の再編について事務調査を行った。前回の調査では、生徒数の減少の実態、町の財政状況教育現場における状況等の調査を行ってきたが、今回さらに通学区見直しの具体的な課題を整理した。考えられるのは①校舎等の整備事業（小学校二校、中学校一校の場合、規模の大きな校舎が必要となり教室不足への対応、

調理室、プールの整備等）
②スクールバスの整備事業（新たな学校の配置、通学区が明確になった場合の新路線、台数は）
③給食設備事業（小学校の厨房設備、座談会では中学校での給食実施を望む声が多い厨房設備について）
④校歌、校章の作成
⑤教育施設整備事業未償還分、運営経費である。以上のことから初期投資が相当額に上るものと考えられる。

産業建設常任委員会

地域通貨エコカードで資源保全活動を展開

平成十八年十月二十四日～二十六日の三日間、農業振興と商業活性化について愛知県弥富市、静岡県新居町への先進地調査を行った。

弥富市における農地、水、環境保全向上対策事業の取組みは、モデル地区指定を契機に役所ありきでなく地域通貨エコ

カードを導入し、資源保全活動に参加した住民にエコカードを渡しカードと地元農産物を交換できる地域通貨制度である。活動を通じ資源保全への理解を高め、地産地消を図る一躍になっていた。参加者から上々の評判を得てるとのことであった。新居町の取組みは、商業



「オハヨウゴザイマス！」

者自らが考え、自らの負担能力範囲内に「あらい商工葬祭協同組合」を設立し、地元密着サービス、組合員の人的無料奉仕から葬祭業者との違いにより町内葬祭シェアの九五%を獲得している。両市町ともなるべく行政に頼らない取組みが成功に至った要因と感じられ本町においても行政も議会も益々住民との信頼関係の醸成に努めて行かなければならないと確認した。

厚生常任委員会

共同作業所ハウスの現状視察

平成十八年十一月二十八日、町の心身障害者の小規模作業所たんぼハウスの運営状況と、介護保険制度改正に伴う介護サービスの現状の二つの現地調査を行った。

まず、平成九年に開所したたんぼハウスでは、十五人がボールペンの軸揃えなどの作業に、働くことの誇りを持って楽しく仕事をしていた。

運営費の収入は、主に町、県の補助金それに事業収入など。今年度は法律改正により国の補助金がカットされ、六九五万円の予算を組んでいるものの、運営は非常に厳しいとのこと。

平成十二年からスタートした介護保険制度は、今年度、一部改正された。町の社会福祉協議会に所属する訪問ヘルパーは十七人、ケアマネージャー二人。

月平均の介護利用者は六十人前後、のべ利用回数が一六二五五回と平成

十七年度の実績でしたが、今年度はそれを上回るようだ。

今後、国の方針として居宅介護を含めた居宅サービスの充実が求められている。

たんぼハウスで説明を受ける



カードと地元農産物交換で協同活動



町民の声

楽しく 子育てを！

平 真喜
大字洲島

五年前に三十二年間勤めた会社を退社。孫育ての専業主婦に転身した私。一緒に退社した友人達は翌年から次の勤め先へと働き始めたが、そんな光景を見て、自分が取り残された気になったのも確かでした。しかし地域の友人から育児サークルへの誘いがあり孫と共に参

加したのです。おばあさん同士、若いママ達、子供達との交流に大満足、感動の連続でした。そして、子育ての大切さも痛感しました。

私は三人の子供がいまですが、やはり父母にお世話になりながら会社勤めに精を出していました。子供達の学芸会を観に行けない事もあり、今思うと悔やまれて仕方ありません。三才迄の接し方が将来大きく影響すると言いますが、自分の子供に接してやれなかつた分、いま孫と共に成長しています。

昔は子供は「神仏からの授かりもの。」ところが今は「作つたもの所有物」と勘違いしているから虐待し、殺しても平気な世の中になっているのではと胸が痛みます。また、最近子供達の自殺も連日報道されていますが、自殺を考えた時思い止めたのが「じいちゃん、ばあちゃんの悲しむ姿」だと聞いた事がある。祖母の役目は大切なんだと確信しました。子育ては両親、家族、地域一丸と



確かに未来を見る目だ

なり沢山の愛のシャワーで育て、どんなアクシデントに遭つても挫けず、立ち向かつて行ける精神を養うべきと思う。

日々です。私の心の宝箱にはどんな宝物も増えてゆきます。まだルン子育て広場に参加した事のない皆さん是非、足を運んでみて下さい。楽しい世界が待っています。そして子育て孫育てに疲れ、リフレッシュしたい時は、「おんぶ」に一報下さい。あなたの手助けをしますから。

幸いにして我が町では各地区に子育てサークルがあり、好環境だと思えます。私も昨年保育サポーターの資格を取得、川西町唯一の託児サークル「おんぶ」に登録し活動しています。子育て支援センターで実施している「ルン子育て広場」にボランティアとして毎日の様に参加し、子供達と共に楽しく学んでいます。今はサークルで知り合った仲間の方との輪も広がり、とても充実した

地域みんなで楽しく有意義な子育てをしてみませんか！ダリアが川西町を輝かせている様にこの町で子供を育てる事が出来て良かったと思えたら最高です。

「サポーターのおばあちゃん」といっしょ



カウンター越しに聞く川西町 (応援団の1人として)

米沢市・後藤吉勝さん

わがまちをよそから見れば…



<ごとう よしかつ>

昭和13年7月18日生 68才
米沢市東大通在住
昭和37年法政大学経済学部卒
元川西町職員
趣味 ウォーキング、ゴルフ、銀細工、
皮細工

私は生まれも育ちも米沢で川西町のことはなにも知らない余所者でしたが、縁あって川西町役場職員として勤務させていただきました。勤め始めの頃は、町の地形、大字、小字の名称、道路すら知らない人でしたので、地元出身の職員の方に大変お世話になった記憶があります。平成十一年三月に退職するまで二十一年間、川西町の皆様に大変お世話になりながら生きて

きました。今あらためて感謝いたします。ありがとうございます。退職後の人生をどの様に過ごすかを考えた時、毎日が日曜日、のんびりと老いてゆきたくない、現職時のように多くの人との出会いを持ち続けたいとの思いから、誰でも気軽に入れる小さな喫茶店を作ろうと決心し、一年間の準備を経て米沢市塩井町にオープンし現在七年になります。この間、多

くの人と出会い、交流も生まれ今も楽しくカウンターの中に立ちコーヒーを入れていきます。お客様は、いろいろな話題や情報を入れてくれます。店に川西町のイベントチラシも置いてある関係か、川西町のこととが話題になることがあります。そんな時は自然と聞き耳をたててしまいます。コーヒーを入れながら聞こえてきた川西町の話題を紹介いたします。「川西町は米沢や南陽より小規模なのに独自の文化活動の多い町だよなあ！一流の演劇、音楽、公演等々が多く、これ等を地元で観聞きできることはすごいし、うらやましい。単に見る聞くだけでなく、先日公演されたプロのオペラ歌手と町の人々が一緒にオペラを歌ってしまう等、自ら体験し発表でき

る環境があり、又、これ等を実践する人々が居ることがすごいと思う。」米、川西産の米はうまい！私も食してませんがお客様からもよく聞きます。良質で安心安全な食が求められている今、県内でも有数の良質で生産性の高い整備された耕地を持つていること、この事は何かあっても心配ないと思える町の宝だと思えます。ダリアの花が、切花として商品化され評価を得ていること、米沢のスーパーや商店に並ぶ商品の中にも川西産の品物が多くなり独自の活動が実感できうれしくなります。

車社会になり生活範囲が広くなり、今後は置賜は一つになってくる実感があります。川西町は地位的に置賜の中心に位置しており、何をするにも、地の利を得ている町です。川西町の応援団の一人として川西町の穏やかな発展を心より願っております。

新年おめでとうございませう。▼「団塊の世代」が今年から六十歳定年を迎える「二〇〇七年問題」が現実化。諸先輩の経験・英知を産業・地域振興に活かすべき▼農業停滞の象徴的作物は稲作。本町は全国有数の米どころ、今こそ十年先の水田農業ビジョン構築へ多種多岐にわたる知恵を▼英国気象庁が今年の年間世界平均気温は過去最高になる可能性が高いと予測、今年亥年の恵みは如何に▼その亥年も六十年に一度の「金猪年」出産に縁起が良いとか、六年ぶりの赤ちゃん誕生増の発表に嬉しいかぎり▼猪突猛进、干支に因み幸多き年と祈願す。(照)

編集のなつこ

- 委員 長 黒澤 照夫
副委員 長 高橋 明夫
委員 員 横山 明博
佐藤 興市
高橋 建一